

平成25年行政事業レビューシート (環境省)

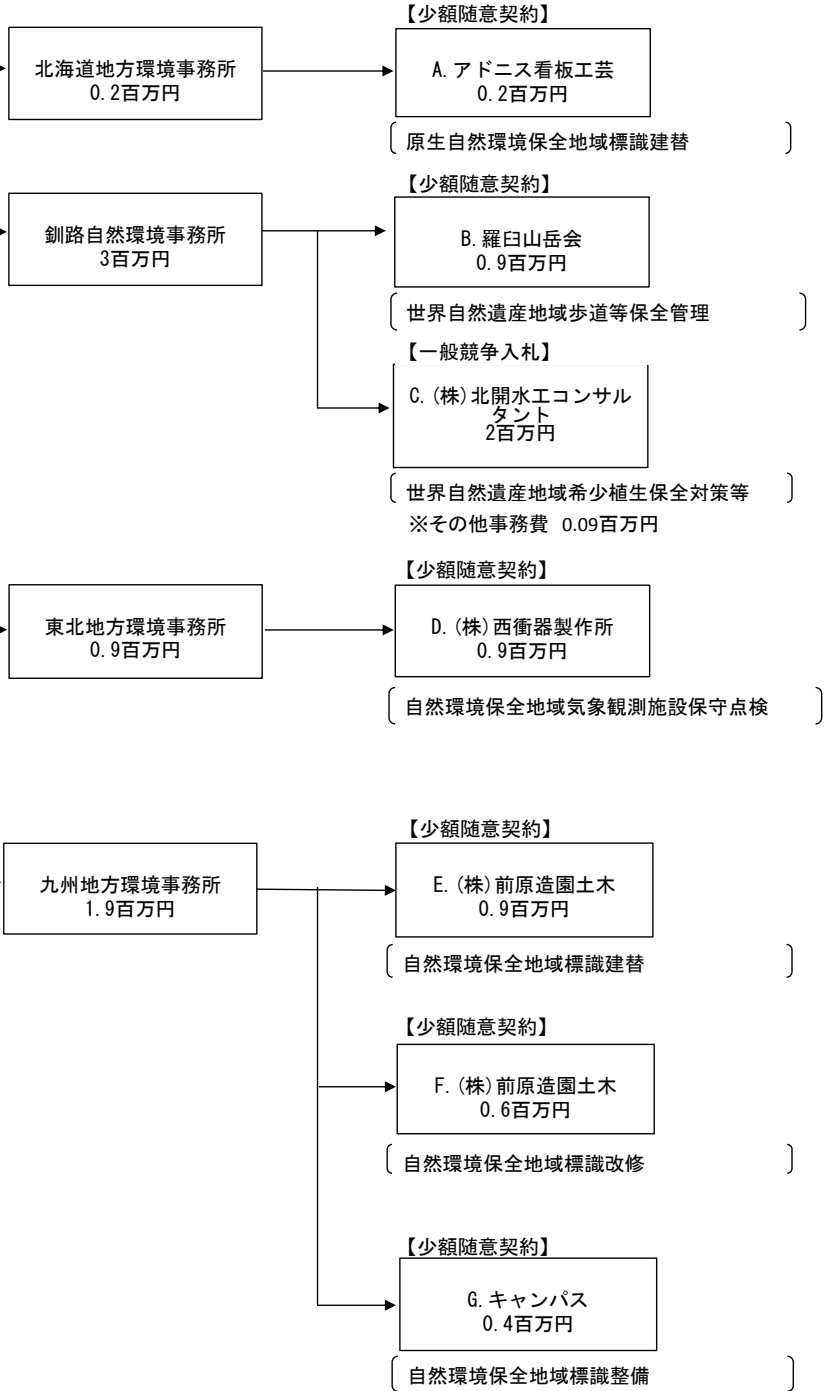
事業名	特定地域自然林保全整備		担当部局庁	自然環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成4年度～		担当課室	自然環境計画課		課長 亀澤 玲治		
会計区分	一般会計		政策・施策名	5 生物多様性の保全と自然との共生の推進 5-2 自然環境の保全・再生				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	世界遺産条約第5条 自然環境保全法第16条及び第24条		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	<p>世界遺産は顕著で普遍的な価値を有する遺跡や自然地域などを人類全体のための世界の遺産として保全し、国際的な協力及び援助の体制を確立することを目的とし、それぞれの遺産の保全は、世界遺産条約第5条に規定するように、一義的に自国の責務となっており、既に登録されている世界自然遺産について積極的にその保全に努める必要がある。</p> <p>また、原生自然環境保全及び自然環境保全地域は、人為の影響をほとんど受けていない原生的な森林や、固有性・希少性の高い生物種の生息地など、我が国の生物多様性の保全上極めて重要な地域であり、それぞれの地域については、自然環境保全法に基づき、国が保全のための事業を行う必要がある。</p>							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	我が国の世界自然遺産地域である「屋久島」、「白山山地」、「知床」及び「小笠原諸島」や、原生自然環境保全地域及び自然環境保全地域において、モニタリングのための機材や保全のための標識等の整備・更新を行う。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		当初予算	15	13	5	5	5	
		補正予算	0	0	0	0		
		繰越し等	102	△2	2	0		
	計	117	11	7	5	5		
	執行額	63	11	6				
執行率(%)	54	100	86					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	22年度	23年度	24年度	目標値(26年度)
	遺産地域等の適切な保全管理の実施(遺産地域等の適切な保全管理を図る事業のため、定量的な成果目標を示すことは困難)			-	-	-	-	-
	達成度		%	-	-	-		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	遺産地域等の基幹的施設の整備・更新(モニタリングのための機材や保全のための標識の整備・更新等)			地域	3	4	5	-
				(5)	(3)	(4)		
単位当たりコスト	1.2(百万円/1地域)		算出根拠	平成24年度執行額/モニタリングのための機材や保全のための標識の整備・更新等を行った地域数				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	施設整備費	5.31	5.31					
	施設施工旅費	0.07	0.07					
	施設施工庁費	0.1	0.1					
	計	5	5					

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	世界自然遺産地域及び自然環境保全地域等については、条約及び法に基づき国が責任をもって管理を行う必要があり、また特に、本事業は管理の基礎となる保全標識やモニタリングに係る事業であることから、その必要性及び優先度は高い。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	支出先の選定にあたっては、少額のものを除き一般競争入札に付し、競争性を確保している。また、コストの妥当性の確認や使途についても必要なものに限定等するなどしている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		—			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—				
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	設置・更新等を行ったモニタリング機材については、世界自然遺産地域等における適切な管理に不可欠な、科学的データの取得に有効に活用されている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	<p>世界自然遺産地域及び自然環境保全地域等の保全管理にあたり、保全看板の設置やモニタリングの実施は基礎となる取組であるが、当該地域は気象条件の厳しい環境にあることから、保全標識やモニタリング機器は破損等が発生しやすく、定期的な更新整備や継続的な補修が必要である。平成24年度に実施した看板の設置にあたっては、利用者の動線等を踏まえ、必要性及び維持管理の観点から設置場所を選定し、かつ、その利用者層及び利用形態を踏まえた看板内容とした。また、モニタリング機材から得られるデータは、世界遺産地域科学委員会等における検討に資するなど、今後の効果的かつ効率的な保全対策にも活用されるものである。支出先の選定にあたっては競争性も確保しており、本事業についてはその目的に沿った効率的な予算執行が図られている。</p>					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	引き続き効率的な執行に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	引き続き効率的な執行に努める。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	195	平成23年	186	平成24年	196

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

環境省
6百万円

〔世界自然遺産地域等において、
モニタリングのための機材や保
全のための標識の整備・更新等〕



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.(株)北開水工コンサルタント			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費等	世界自然遺産地域希少植生保全対策等	1.9			
諸謝金	専門家謝金	0.1			
計		2	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	アドニス看板工芸	原生自然環境保全地域標識建替	0.2	少額随契	-

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	羅臼山岳会	世界自然遺産地域歩道等保安全管理	0.9	少額随契	-

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)北開水エコンサルタント	世界自然遺産地域希少植生保全対策等	2	3	98

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	西衝器製作所	自然環境保全地域気象観測施設保守点検	0.9	少額随契	-

E.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)前原造園土木	自然環境保全地域標識建替	0.9	少額随契	-

F.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)前原造園土木	自然環境保全地域標識改修	0.6	少額随契	-

G.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	キャンパス	自然環境保全地域標識整備	0.4	少額随契	-